

謝 辞

被表彰者代表
石 川 浩



ただいま、表彰いただきました持田製薬の石川でございます。ご指名ですので、高い席から僭越ではございますが、表彰者を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

振り返りますと、私が知的財産協会の活動に参加したのは、今から20年程前のバイオテクノロジー委員会でした。ちょうど私のいる会社が、バイオテクノロジーの製品をめぐる知財問題を抱えており、裁判も抱えていました。プロパテントの時代です。バイオ知財はアメリカに圧倒されていて、いろいろな特許が日本に押し寄せてくるという中において、知財問題をどう扱ったらよいのか熱く議論をしたことを覚えております。こんなに知財のことを、会社を越えて熱く語れる仲間がいるのだ、こういう世界があるのだということを初めて知りました。

その後、特許委員会でも活動しました。その当時の皆さんとは、今でも情報交換させていただいております。お酒の好きな方が多く、今でも何人かの方は飲み友達として親しくさせていただいております。

そして、特許委員会するとき、私にとっての大きな起点、知財協活動においても大きな起点がありました。2000年当時に知財協の代表団として訪米団、訪欧団に参加させていただいたことです。やはり、知財協は世界一のユーザー団体ということをそこで実感いたしました。アメリカ特許庁、それからヨーロッパ特許庁、EU、WIPO、ドイツ特許庁などを訪問してまいりました。アメリカではプロパテントが一層顕著に、ヨーロッパでは統一特許の草稿がちょうど出たときでございました。今後どうしていくのかということ熱く語ったのを覚えております。また、そのようなときに、各国の各機関の長、あるいは次官クラスの人が出てきて、私たちのプレゼンテーションにそれぞれコメントを戴き、熱く議論させていただいたということは、私のグローバルマインド形成にとって大きなインパクトでありました。また、それは知財協の活動においても大きな自信となりました。

いつとき知財協の仕事から離れていたわけですが、2011年、再び、今度は常務理事として皆様と一緒に仕事をする機会をいただきました。その後、2年間常務理事、2年間副理事長として仕事をさせていただきました。そこでの重要なことを私なりに振り返ってみまして、二つ挙げさせていただきたいと思います。一つは、一般社団法人化です。これは事務局の方、専務理事、理事長の方に負うところが多大なものがございましたが、私としても新しい社団法人のあるべき姿に照らしながら、新しい定款案、当時の規約等を何度も何度も読み返しておりました。あまり多くは意見を言えませんでした。こうしたほうが良いということを申し上げたことをいくつか覚えております。

それからもう一つ私にとって大きなことは、職務発明の制度改正でございます。ちょうど私が常務理事になって職務発明プロジェクトを担当したときは、実はまだ安倍政権の前の民主党政権でした。法改正は無理だよ、まだ機は熟していないということをおっしゃった方がけっこういらっしゃいました。そういう中において、私たちプロジェクトとしては、職務発明制度フォーラムという公開イベントを実施して、課題の整理と法改正のあるべき姿を議論しました。ちょうどその直後です。安倍政権が誕生しました。安倍政権の中において3本の矢の成長戦略として、職務発明制度見直しを取り上げて戴くことができました。イノベーション促進に軸足を置こうということで、閣議決定がなされ、それが追い風となって、最終的には今年の4月1日に法改正の施行を見るというような状況まで来ることができました。

この間、いろいろ紆余曲折もございましたが、多くの方々の、プロジェクトの方の熱い思いが産業界一枚岩となって経団連、各種工業界の方の支援をたくさんいただくことができました。こうした中で法改正が実現したのだと思います。関係者の皆様、お世話になった方に厚くお礼を申し上げたいと思います。

もう一つ、忘れてはいけないのが、関係する学者・弁護士さんなどの有識者、30名を優に超える方々を訪問して意見交換をさせていただきました。

制度改正を実現するためにはどうしたらよいのか、私たちの課題を理解してもらうことが中心でございましたが、私たちのそういった熱い思いが一つの法改正を実現したのだと思います。やはり、これは、知財協のパワーだと思います。私一人で決してできることではなくて、皆様が知財協を軸に一つの日本の法制度について思いを一つにできたことが実ったのだと思います。このような知財協活動の熱い思いは今後も続いていくと思います。

私は、弁理士ですので、引き続き知財の世界で仕事をしてまいります。知財協はこの熱い思いを持って、ますます発展していくのではないかと思います。ぜひ期待したいと思います。

最後になりますが、今日、ここにいる皆様の会社及び知財協がますます発展することを祈念しまして、お礼の挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。